

ジャストゴルフ



札幌市医師会
北ノ沢病院

土本 ケイ子

私は今年84歳になります。ゴルフを始めて54年目になります。近頃思うことは、ゴルフは息の長いスポーツだなあとということです。こんな年になってもまだまだゴルフを楽しめています（平成28年は108ラウンド）。競技ゴルフが好きでしたが、近頃はただラウンドするだけでも幸せであることに気付いたのです。自然の中で美しい空、心地よい風、そよぐ樹々、足もとの草、そして雨、寒ささえも素晴らしく心地よく、ましてや気の置けない友達と一緒にきたら、こんな幸せはありません。この新境地についてふと思い当たることもあり、私の本棚に50年以上も鎮座している蔵書「ダウン・ザ・フェアウェイ」の埃を払い、取り出してみました。これはゴルフを始めたとき、夫が私に買ってくれたものです。あの球聖と言われたボビー・ジョーンズの自叙伝です。するとやっぱりあったではありませんか。私が最近感じ始めた新境地と同じような記載が。

25歳にして全米オープン2回、全米アマ2回、全英オープンと、前人未踏の業績を残したボビー・ジョーンズが、その著書（近藤経一訳、1963年初版）の中で、「あのゴルフ、ただのゴルフがあんなに面白いものであるのに、またしても競技ゴルフに臨んでゆく自分は馬鹿げているのではないか」と表現されています。そして最後に、自分のトーナメント時代が過ぎてしまったとき、一つだけ予言できることは、「あのゴルフ、ただのゴルフを回っているであろう」と結んでいます。ゴルフを愛する皆さんに、競技ゴルフではないボビーの愛したゴルフがあることを、そしてこれがまた無情の幸せをもたらすものであることを示唆しています。

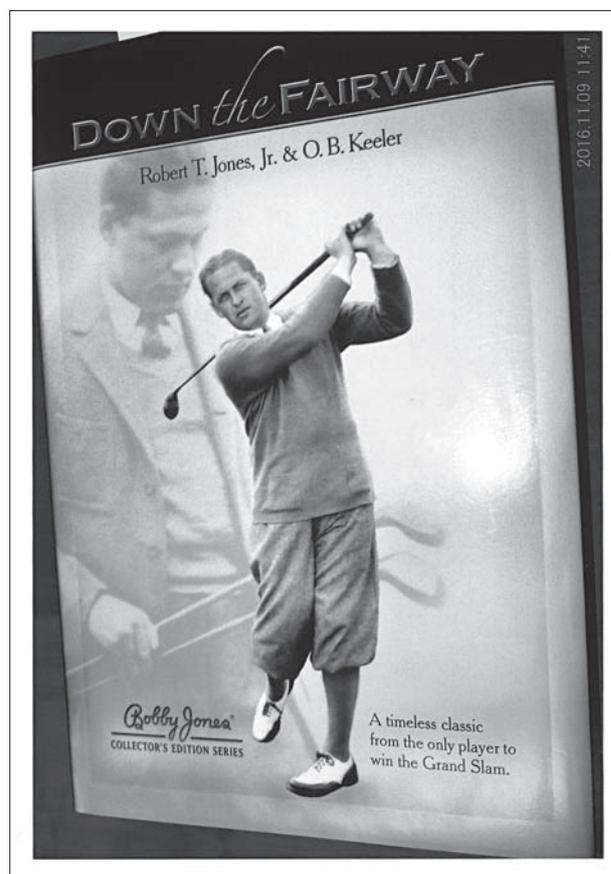
ところで私はボビーの最も愛したゴルフ「あのゴルフ、ただのゴルフ」と翻訳された言葉が、いったい原書ではどんな言葉で表現しているのだろうかとすごく気になりだしたのです。

近藤経一訳のあと、菊谷匡祐訳が1996年に「Down the Fairway」を出版していますが、その中では同一箇所を「ゴルフ—ふつうのゴルフ」と表現しています。近藤訳本に「原文は日本ゴルフ協会所蔵」との記載がありましたので、ぜひ閲覧に行き確かめたいと希望は膨らむばかりでした。

その後、後輩の日本ゴルフ協会委員のO嬢に調べてほしいと頼んでいましたら、インターネットショッピングで見たとの知らせがあり、さっそくAmazonで原書を購入いたしました。手にした原書

は、なんと表紙全面にBobby Jonesのフィニッシュの写真とサインが、がーんと載っているではありませんか。それを見たときの嬉しかったこと！最高でした！（近藤訳本は何故かかもめの写真でした）。そしてその私の求めていた原語はgolf-just golfだったのです。嬉しくて思わずウワーと両手を挙げました。これこそふさわしい言葉ではありませんか。ボビー・ジョーンズが永遠に愛したゴルフはJust golfだったのです。私は今まさにこの美しく荘厳な言葉で表現されたジャストゴルフ（あえて邦訳はしません）を愛しているのです。

辞書を片手に、これからも「Down the Fairway」で楽しめることでしょう。



「ダウン・ザ・フェアウェイ」の原書